



1. 目指す学校・目指す生徒

明治期に創設された本校は、常に我が国の農業教育の中心的役割を担ってきた。創立以来 118 年の歴史を重ね、令和 10 年度の創立 120 周年に向けて名実ともに日本を代表する「農業の専門高校」としての充実を目指す。

校是「勤勉 勤労」

*校是とは、学校設立の根本精神をいう。初代校長、熊谷八十三先生が明治 41 年開校にあたり「勤勉 勤労」を生徒心得として定めた。

☆スクールミッション

「勤勉・勤労」を校是とし、プロジェクト学習や STEAM 教育の推進、工程管理学習の充実、栽培した生産品等の販売実習、国内外の友好校との連携といった教育活動を通じて、基盤学力と園芸・食品・動物の専門技能を身に付けた人間性・社会性豊かで、学び続ける力をもった生徒を育成します。

☆スクールポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

基盤学力と園芸・食品・動物の専門技能を身に付けた人間性・社会性豊かで、学び続ける力をもった生徒を育成する。

(2) カリキュラム・ポリシー

我が国の生物関連産業を支える人材を育成するため、園芸科では、食料や鑑賞を目的とした植物の生産・活用に関する汎用的能力を身に付けさせる。食品科では、健康・安全でおいしい食品を作り、分析し、伝えるための汎用的能力を身に付けさせる。動物科では、人と動物、動物の生息する自然環境との適切な関係を理解し、伝えるための汎用的能力を身に付けさせる。

(3) アドミッション・ポリシー

農業に対する興味・関心が高く、将来の進路に生かそうとする生徒を育成する。また、高校生活のあらゆる場面で意欲的に取り組む生徒を育成する。

〈目指す生徒〉

- ・基盤学力と、(園芸・食品・動物科の) 専門技能を身に付けた人間性・社会性豊かで、「学び続ける力」をもった生徒、不透明な時代で活躍するために「タフでしなやかな生徒」
- ・我が国の生物関連産業を支え、発展させリーダーとして活躍できる生徒

2. 中期的目標と方策

東京都教育施策大綱～誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育～(令和 7 年 3 月)、都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム(令和 7 年 3 月)の趣旨を、「園芸高校全日制教育」に生かす。

(1) 学校経営

「個人商店主義」の排除、「一体的経営」を行う。

(学校は組織で教える場所。全体のベクトルを合わせて「チーム学校・チーム園芸」で進める。)

- ① 「教職員全体の経営参画意識」と「学校全体での改善」による学校の力の強化
- ② 「部分最適」よりも「見える化」による「全体最適」の優先、「最適解」を意識する。

- ③ これまでの教育スタイルを見直し、デジタルを活用した新しい教育スタイル(*LPX)へ転換
- ④ 成果検証の確実化・迅速化を図る。
- ⑤ 「東京で一番、全日制・定時制の仲のいい学校」、「全・定」間の見える化を図る。
- ⑥ 「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」に基づきライフ・ワークバランスの推進を図る。

*Learning Platform Transformation (学習基盤の変革) 東京都教育施策大綱より

(2) 学習指導 (共通の基盤)

校是「勤勉 勤労」の体現と「力を付ける授業」

- ① 「言語活動の充実」を図る。「読解力」を育成し、「アウトプット (話す・書く・行動する)」も重視し、生徒の思考場面を重視した「考え抜く授業」を実践する。
・(定義の理解など) 教科書を読んで理解する力・理解したことを表現できる力を育成する。
- ② TOKYO ACTIVE PLAN for students (総合的な子供の体力向上方策 (第4次推進計画))」に基づいて体力向上を目指し、農業系高校に相応しい体力を育成する。

(3) 専門教育 (多様な方向性、能力の最大化)

- ① 「技能スタンダード (資格取得と客観的評価)」と「アグリマイスター顕彰制度の活用」
- ② 「教員個々の指導力の向上」「スマート農業技術など先端技術の習得」
- ③ 専門教科と普通教科の連携による教科横断的な授業による深い学びの充実

(4) 生活指導 (規範意識の醸成と生徒に寄り添う指導の充実)

- ① 「挨拶ファースト運動」と手帳を活用した「時間管理」
- ② 「3つのリスペクト運動」で 互いに敬意を払い、尊敬されるよう自身を律する。この運動をとおし、「体罰といじめ」のない、許さない学校環境を作る。さらに、自殺総合対策大綱に基づいた「自殺の未然防止」につなげる。
- ③ 「厳格」と「受容」、(ゼロトレランス) と (カウンセリングマインド) により、いじめや自殺、問題行動などの早期発見と早期対応を組織的に行う。

(5) キャリア教育・進路指導 (社会で自立できる力)

- ① 3年間のキャリアプランに基づく、「学校から社会・職業へ移行した後まで見通した系統的指導」
- ② 「学校外組織と連携」(産業界、大学、ハローワーク、サポートステーション等)
- ③ 希望する進路実現に向けた進路指導の充実

(6) 特別活動 (豊かな人間性と社会性、母校愛・連帯感の育成)

- ① 創立118年を経て「体育祭・園芸展」の2大行事で生徒の個性の伸長と育成を図る。
- ② 「学校の名所」維持管理で「母校愛」を育む。
- ③ 生徒会活動、委員会活動、部活動へ積極的に参加し、社会性、連帯感、母校愛を育成する。

(7) 健全な心と身体の育成

体力向上、食育、心身の健康に関する指導を充実させ、健全な心と身体を育成する。

(8) 地域連携 (学校・地域・海外・産業界の連携)

- ① 地域連携や商品開発による起業家教育、キャリア教育を充実させる。
- ② 「専門」を生かした地域連携、地域との協働
- ③ 友好校との交流事業による国際理解教育の推進・グローバル人材育成

(9) 教育財産・予算 (質の高い教育環境)

- ① 「校舎内外のきれい化」
- ② 「歴史的教育財産の維持管理」

3. 今年度（令和8年度）の目標と取組（特に今年度行うべきこと）

経営計画 実現のための〈重点目標〉

◇1 「授業力の向上」：アウトプット・AL・SDGs の視点を取り入れた授業実践

教務部・研究部を中心に、授業研究・指導力向上・成果検証を行い、結果を授業改善に生かす。

◇2 「地域連携・教科連携」：社会に開かれた教育課程・教科等横断的な学びの実践

よりよい社会を創るという理念の実現（地域課題解決）に向けて、地域との連携・協働と教科横断的な学びを進める。あわせて、成果検証のPDCAを継続的に回す。

◇3 「総合型選抜入試に重点を置いた進学指導」

課題研究・プロジェクト活動、資格取得、体験活動を生かした指導を行う。その活動を活かして、小論文・面接指導等を学年・学科・進路指導部が組織的に実施し、大学・短大への進学希望者の進路実現を図る。

（進学指導等の充実事業）

◇4 「創立120周年に向けた価値創造」：「サステイナブル&クリエイティブ アグリハイスクール宣言」

・日本初の園芸の高校としての教育活動（研究・地域貢献等）を持続的に継続する。

・Society5.0の時代に新しい一歩を踏み出し教育スタイルを創造する。（DXハイスクール・LPXへ転換）

・国内・海外の友好校と連携し、持続可能な交流活動を推進する。（海外学校間交流推進校）

・「N-E.X.T（ネクスト）ハイスクール構想」（文科省）を踏まえ、サステイナブル&クリエイティブ アグリハイスクールへ転換を図る。

◇5 「園芸高校からの情報発信」（農業系専門学科の認知度向上）

本校の教育活動・教育内容を積極的に発信し、農業教育および農業の重要性を社会に伝える。あわせて、全教員による中学校訪問、出前授業、塾訪問を実施し、農業系専門学科の認知度向上を図る。

人間性・社会性を育成するための〈生徒指導〉

1 「挨拶ファースト運動」

挨拶の意味と身だしなみの大切さを理解し、自然と身だしなみを整え挨拶ができるように取り組む。

2 「3つのリスペクト運動」生徒に敬意・尊敬・畏敬の念を育てる

①人をリスペクトする（人に敬意を払う）

②人にリスペクトされる（人に尊敬されるよう自身を律する）

③自然をリスペクトする（園芸の自然物に畏敬の念を払う）

(1) 学校経営（学校経営、グローバルアグリスクール、情報発信と募集対策、ライフ・ワークバランス）

① 学校経営

ア 成果検証の確実化・迅速化

学校行事終了後は、生徒の変容と成果検証をすぐに行い、具体的な改善事項を実施後2回目以降の企画調整会議で報告する。

イ サステイナブル&クリエイティブ アグリハイスクールに向けて、デジタルを活用した新しい教育スタイル(LPX)、教育課程、キャリアプラン等を転換する。

② 「創立120周年に向けた新しい価値を創造する。」「サステイナブル&クリエイティブ アグリハイスクール宣言」

ア 新しい価値創造と次期学習指導の改訂を見据えて教育課程の見直しを図る。

イ 国際性（グローバル）・地域性（ローカル）・園芸教育（アグリ・ハイスクール）を複合させた教育（グローバル・アグリハイスクール）を推進する。

ウ 友好校事業や国際理解教育を推進し、グローバル人材を育成する。（海外学校間交流推進校）

・ベトナム ドンタップ省コミュニティ高専へ生徒交流訪問（第3回のベトナムスタディツアー）、国際理解教育の推進を図る。

エ 120周年行事に向け、周年行事委員会を立ち上げ、日本庭園再生、イチョウ並木整備を進め、徳川三代将軍遺愛の盆栽などの学校財産の持続的な活用を図るとともに、新たな教育活動の価値を創造する。

オ 研究部、教務部が中心となり、今年度の教育活動の成果を研究紀要にまとめる。

③情報発信と募集対策（農業系専門学科の認知度向上）

ア 「学校ホームページ」のコンテンツ充実、SNSでの発信を強化し、X（旧ツイッター）やインスタグラムの更新頻度を高める。HPは、年間200回以上配信、園芸・食品・動物科の各学科：各30回以上、教務・生活・進路等：各15回以上 各部活動3回以上。インスタグラムは、フォロワー4000名以上（年度末）

イ 全教員による中学校訪問や出前授業、塾訪問を実施し、専門学科高校の情報を発信する。

ウ 学校案内の充実による教育活動の発信力を高める。中学校への出前授業を充実させ、本校の魅力を中学生に伝える。

エ 専門学科主任会議の定例開催により教科教育力、広報や募集対策等の強化を図る。

④ライフ・ワークバランスの推進

ア 教職員のライフステージに応じた働き方改革やDX化を工夫し、生徒への教育の質は高めつつ教職員はWell-being（ウェルビーイング）な心身と社会的な健康生活の両立を図る。

イ 学校閉庁日の設定に当たり、保護者や学校外の理解・啓発を図る。

ウ 年次有給休暇の一層の取得促進（月1回以上の取得、年間15日以上）

エ 長期休業期間や学校閉庁日においては夏季休暇、年末年始等と合わせ、連続して取得を図る。

(2) 学習指導（基盤学力の育成）

①全教員が、「教員相互の授業参観、校内授業公開の実施」学期に1回以上、「外部での模範授業や公開授業」年1回以上を参観し、自己の授業のPDCAに生かし、授業力向上を図る。

②すべての教科で「言語活動の充実」を図る。「読解力」を育成し、「アウトプット（話す・書く・行動する）」を重視した、生徒の思考場面を取り入れた「考え抜く授業」を実践する。

③普通教科は、基盤学力の向上のために、講習・補講などを放課後および長期休業期間に計画的に行う。

④基盤学力の保証のため、漢字検定、英語検定・GTEC・数学検定・ニュース検定等をはじめとする普通科目に関する検定を校内で実施し、合格数50件以上を目標とする。

⑤全教員が、一人一台端末（PCタブレット）を活用した、「分かりやすい授業」を行うとともに、年間3回以上、スタディサプリの課題の配信を行い、個別最適化された学習と生徒の学習習慣を定着させる。

⑥朝学習の時間に外部教材プログラム（スタディサプリ）を活用し、基盤学力の向上と学習習慣の定着を図る。

⑦教科等横断的な学びやSTEAM教育の推進により、各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための展開をする。

⑧個別最適化された学習による自学自習と協働的な学びを通じたアウトプットの習慣を確立させる。

⑨教員が「主体的、対話的、深い学びの授業」（AL型）を実践する。探究型学習、プロジェクト学習、課題解決学習などの学習活動の充実を図り、生徒の「答えのない課題」と向き合う力を身に付けさせる。

⑩「生徒による授業評価アンケート」を年1回実施し、教員の授業力向上を目指す。

(3) 専門教育（進路に生かせる技能）

①すべての農業科教員が、開かれた教育課程の実践として、地域連携、高大連携、インターンシップ、企業連携、研究活動などに取り組む。

②系統的・計画的指導

1 学年：「農業と環境」の指導の充実による農業学習に対する興味・関心の向上
「FFJ検定・初級」の実施 合格率95%以上

2 学年：農業学習の客観的評価及び技能スタンダードとして
「日本農業技術検定・3級」合格率95%以上、「FFJ検定・中級」合格率65%以上

3 学年：プロジェクト学習の推進と高度の専門性を確立するため
「FFJ検定・上級」・「日本農業技術検定・2級」各学科5名以上合格

全学年共通： 生徒一人一人が1年間で1つ以上の検定合格や資格取得の合格を図る。

③アグリマイスター顕彰制度

3 学年前期申請（7月） 5名以上、3 学年後期申請（12月）10名以上
プラチナ3名、ゴールド10名、シルバー10名以上 取得者計35名以上

④工程管理学習の充実（GAP、HACCP教育）

農業科全学科においてGAP（農業生産工程管理）の概念に基づく農場運営にあたる「GAPする」を実践し、生徒に指導する。工程管理学習の充実により、産業界の要請に応える人材育成を図る。「GAPをとる」の場面では、生徒も継続審査等に関与させ、実践力を磨く。

園芸科においては、JGAPの認証農場における学習を充実させる。

食品科においては、HACCP（危害分析・重要管理点）に基づく衛生管理を指導する。

- ⑤動物科では、「アニマルウェルフェア」に基づいた教育と指導の充実を図る。
- ⑥経営感覚を有した生徒の育成
生徒が栽培した生産品等の販売実習の場面において実践的な経営学習となるように事前・事後指導を充実させる。
- ⑦園芸高校生産品のブランド化を図り、生徒に自信をもたせる。起業家教育・知的財産教育を推進する。
- ⑧農業教育と環境教育の両立
ESD (Education for Sustainable Development) =持続可能な開発のための教育、SDGs(Sustainable Development Goals)=持続可能な開発目標、の趣旨を生かした農業と環境の両立を図り、持続可能な社会づくりの担い手やリーダーとなる教育を推進する。
- ⑨科目「農業と環境」の充実
研究部と協働して、新学習指導要領「農業」で一層重視されているプロジェクト学習を身に付けさせるため、農業科各学科での導入科目である「農業と環境」の指導内容の充実を図る。
- ⑩魅力ある農業教育の創造
「高等学校 DX 加速化推進事業（文部科学省）」の指定を活かして、スマート農業や先端技術の導入を図り、魅力ある未来の農業教育の創造に取り組む。
- ⑪スマート農業や農業各分野における AI や IoT の利活用
都立農業系高校における先進事例を研究し実践する。また、科目「農業と環境」「農業と情報」と連動した、センシング機器から得られるデータをデータサイエンスに基づく解析を行い、栽培や収穫管理、アニマルウェルフェア等に活用し、農業分野におけるデジタル人材を育成する。

(4)生活指導（規範意識を高める・生徒に寄り添う指導の充実・防災教育の推進）

- ①規範意識を高める
 - ア 「お掃除ファースト」（クラス毎に曜日を決め、定期的に教室等の清掃を行う）
 - イ 「時間管理」（全教員が教育活動の中で、生徒がスコラ手帳を活用する場面をつくる。）
 - ウ 「生徒の自主性・主体性」の涵養 学校行事や特別活動、儀式的行事等のあらゆる機会を捉えて育成を図る。教員主導から生徒主導へ一層の転換を図る。
 - エ 「時間を守り信用される人物を目指す」（学期遅刻 10 回以上の重症者学年 5 人以内）
 - オ SNS 等の利用についての心得を身につけさせる。
 - カ 「いじめゼロ、問題行動ゼロ・退学生徒ゼロ」（問題行動 3 件以内、退学生徒 1%以内）
- ② 生徒に寄り添う指導の充実
 - ア 「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画」を踏まえた教育相談機能の強化、特別支援委員会の定例開催と共通理解、ケース会議を実施する。
 - イ 生徒のコミュニケーション能力向上のための研修会や教育実践を行う。
 - ウ セーフティ教室や薬物乱用防止教室等で、情報モラルの習得、生活安全に関する教育を行う。
 - エ いじめの未然防止指導を徹底し、いじめに対して、早期発見、早期対応の指導を行う。
 - オ 生活指導部が、年間 3 回の生活実態調査を実施し、いじめの早期発見に努める。
- ③ 防災教育の推進
 - ア 避難訓練・交通安全教室では、関係機関等と連携を図り、指導内容を充実させる。
 - イ 防災訓練や防災活動を通じて、災害時の対応を学ぶ。

(5)キャリア教育・進路指導（社会の変化に対応できる力を高める）

- ①キャリア教育の充実
 - ア 授業や資格取得、学校行事、地域連携事業等が、生徒の職業観・キャリアプランニング能力、社会性を育てる機会であることを明確にさせ、『キャリアプラン』に基づいた 3 年間を見通した組織的・計画的な進路指導を行う。
 - イ 科目『人間と社会』で、農業系専門高校としてのキャリア教育を行う。
 - ・『人間と社会』を活用して学びのロードマップを作成する。
 - ・1 年生でオープンキャンパスに参加する。
 - ウ 各学科は、インターンシップ・職場体験等を実施し、生徒に勤労観・職業観を育成させる。
 - エ 学科主任を中心に進路担当者等を置き、生徒の進路希望を把握し、計画的な資格取得やプロジェクトなどの体験型学習を支援し、課題研究の学習成果を進路活動に活用する。
 - オ 進路実現と学習意欲の喚起をさせるために、全生徒が『1 年間で一資格、または、一チャレンジ（コンテスト・作文コンクール等）』の取組を行う。
 - カ 『進路便り』を定期的に発行し進路情報を提供する。（年間 10 号以上）
- ②進路指導の充実
 - ア 進学指導等の充実事業を推進する PT を作り、生徒が自主的学習する環境と支援体制を整備する。

- イ 計画的な外部模試を行い、結果を各学年、各教科で分析し、進路指導に活かし、振り返りの学習を行う。
- ウ 1、2年は、三者面談を年間1回以上設定し、保護者と連絡を密にして進路活動を進める。
- エ 近年増加している大学・短大進学希望者に対して、学年・学科・進路指導部が組織的に対応し、「総合型選抜入試に重点を置いた指導」を行い、大学・短大の進学率の向上を目指す。
- オ 大学・短大の進学希望者全員が進学を可能とするように、面接指導、小論文指導、キャンパス訪問、インターンシップなどを計画的に実施する。
- カ 生徒の進学希望に応えるために大学・短期大学進学者向けに夏季休業講習を5講座以上実施する。
- キ 補習・補講、外部教材プログラム(スタディサプリ)などを有効に活用して、基礎学力の向上に努める。
- ク 学年・進路指導部・教務部が連携して正確な公文書(調査書・推薦書)を発行する。
 - ・「教員による企業訪問・上級学校訪問」 (1人最低1社又は1校訪問)
 - ・「進学希望」に対応する。 (進路決定率100%、第1志望実現率90%以上)
 - ・「就職希望」に対応する。 (進路決定率100%、第1志望実現率90%以上)
 - ・大学、短大進学率45%以上
 - ・専門を生かした進路選択率75%以上

(6) 特別活動 (学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、委員会活動、部活動への積極的参加)

- ①「体育祭・園芸展」の2大行事で生徒の個性、社会性の伸長と育成を図る。
- ②全教育活動(行事、HR、部活動等)を通して、自主性や社会性、協調性を育成する。
- ③生徒に部活動への参加を促して、加入率を60%以上にする。
- ④部活動の充実、競技力の向上により達成感、成就感の感じられる活動をする。
- ⑤部活動指導では、生徒・保護者に指導方針、年間指導計画(非活動日)等を明示して活動をする。
- ⑥全教員が部活動の活動については、学期に1回以上、HPやX、インスタグラムで情報を発信する。

(7) 健全な心と身体の育成

- ①がん教育等を通して生涯に渡る心身の健康づくりの基礎を身に付けさせる。
- ②自殺対策基本法及び自殺総合対策大綱に基づく生徒の自殺対策に資する教育を推進する。
- ③全教員に「気になる生徒」の調査を実施し、特別支援教育の更なる充実を図る。

(8) 地域・社会貢献 (社会に開かれた教育課程の先進モデル)

地域活動における生徒の変容を大切にする。生徒自身が地域における活動において、外部からの評価を得ることで、次の学習行動につながるように指導する。外部連携活動を校外向けに「見える化」する。

- ①園芸科は、中之条町農業インターンシップ事業協定に基づきインターンシップの調整、協力を図る。懸がいギクの六義園出展、世田谷の花展覧会出展、都庁花壇植栽、バラ園公開などを計画的に実施する。
- ②食品科は、有楽町マルシェ、全国農業高校収穫祭に2年次のインターンシップを計画的に実施する。
- ③動物科は、世田谷動物フェスティバルの参加協力、ふれあい動物教室、インターンシップ等を計画的に実施する。

(9) 教育財産・予算 (質の高い教育環境を整える)

- ①「百年の森で学ぶ、緑と食と命の学園」としての「園芸高校のブランド化」を推進校内の名所「教育財産」を整備して価値を高める。
- ②「農場管理地図」を活用して組織的な管理作業を行う。特に、管理区域内の樹木の状況について把握し、必要があれば経営企画室と協力し、剪定や害虫駆除など早めの対応を行う。
- ③予算執行を早めに行い、落差金等を学校運営に活用し、執行残をなくす。
- ④経営企画室の経営参画意識と広報・広聴機能を強化する。
- ⑤施設・設備の改修計画に基づき、教育環境の改善と充実を図る。



「東京都立園芸高等学校は持続可能な開発目標(SDGs)を行動基盤として社会貢献・地域貢献できる人材の育成を目指しています。」